

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：日本語日本文学科

資格：教授

氏名：山本 欣司

研究分野	研究内容のキーワード
日本近代文学	小説の解釈, 国語教材の解釈, 映画の解釈, 樋口一葉, 小栗康平
学位	最終学歴
博士(文学), 修士(文学), 文学士	立命館大学大学院 文学研究科 日本文学専攻 博士課程後期課程 満期退学、2010年3月 論文提出により学位(博士)取得

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 就活に役立つ「文章表現法」の取り組み。	2014年4月～	大日2年通年必修科目である「文章表現法」(のち「日本語表現演習」)を、ピアラーニングを取り入れた共通シラバスを導入するなど大幅にリニューアルした。この授業を通じた日文学科の取り組みは、武庫川学院「教育改善・改革プラン」に採択され、2017年12月に表彰を受けた。
2. 文学研究と教科指導の横断的な取り組み。	2012年度前期	「表現学」(4年生):教科書教材になっている文学作品を取り上げ、その表現や内容について論じた。対象となる教材は、小学校から高校まで幅広く、近代文学研究者の立場から、それらの教材へのアプローチの仕方を教授した。受講者には、教員志望者も多く、多くの刺激を受けたようであった。
3. 予習の濃密化を目的とする、Eメールを活用した演習(ゼミ)授業の構築。	2012年度前期	「日本文学演習Ⅰ」(3年生ゼミ):Eメールを用い、前期の課題作品(芥川の短編)に対する3~400字程度の小レポート(自分の感じた疑問点)を毎週提出させ、それをレジュメに仕立ててゼミ演習で使用している。他人の目に触れる緊張感から、学生は熱心に課題(予習)に取り組む。ゼミでは毎回一つの作品を、学生から事前に提出された疑問に答えながら読み進めていく。
4. メディアリテラシー教育の取り組み。	2011年度前期	「表現学」(4年生):メディアリテラシー教育の観点から、宮本輝の小説「泥の河」・小栗康平監督による映画「泥の河」・マルセ太郎による一人舞台「泥の河」を比較分析し、それぞれのメディアの特質を理解させる先進的な取り組みを行った。
5. メディアリテラシー教育の取り組み。学生自身のビデオ機器・パソコンを活用する技術を飛躍的に高めることを狙ったもの。	2009年度前期、2010年度前期	「芸術文化総合演習Ⅲ」(3年生):学生自身が、ドキュメンタリーとは何かを考えながら、友人を紹介する映像作品や、津軽の職人を紹介する映像作品を作成する授業を、美術教育スタッフと共に実施した。教員の指導の下、学生自身の制作した作品自体もすばらしい教材となり、最後は制作作品に関する意見の交換を行う。
6. 教科専門(文学研究者)の立場から、模擬授業形式を導入し、教育実習への動機付けを行う。	2001年度後期より2010年度後期	「日本文学史Ⅱ」(2年生):模擬授業形式を取り入れ、毎週2、3人の学生が一人の作家を取り上げ発表する。学生は、内容面でも表現面でも長い時間をかけて準備・練習し、多くのことを学ぶ。私としても、準備段階で十分時間をかけて学生のカウンセリングを行い、支援をおこなっている。2年後期の模擬授業で、教壇に立つことの厳しさを実感することが、3年次実習への重要なステップとなる。

2 作成した教科書、教材		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 京都学園高等学校講師(非常勤)	1995年04月から1997年03月	私立高等学校で国語科教員を2年間勤めた

4 その他		
1. 大学入試センター試験 出題委員(国語)	2004年04月から2006年03月	大学入試センター試験(国語)の出題委員をつとめた

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

1 資格、免許		
1. 博士(文学 立命館大学)学位取得(博乙第四八四号)	2010年03月	学位論文『樋口一葉 豊饒なる世界へ』を提出したことによる。
2. 修士(文学)	1992年03月	所定の単位を取得し、修士論文「樋口一葉後期文学の特質—『十三夜』をめぐって—」を提出したことによる。
3. 高等学校教諭専修免許(国語)	1992年03月	
4. 中学校教諭専修免許状(国語)	1992年03月	

2 特許等		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
1. 就活に役立つ「文章表現法」の取り組みが表彰された。	2017年12月19日	2015年度に採択された武庫川学院「教育改善・改革プラン」の事業の中から、具体的に実行され成果をあげている10件の事業のうちの一つとして、2017年12月19日に表彰を受けた。
2. 大学入試センター試験 出題委員（国語）	2004年04月から2006年03月	大学入試センター試験（国語）の出題委員をつとめた

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

1 著書				
1. 新聞から見る1923年の神戸 大阪朝日新聞 神戸附録の研究	共	2019年10月10日	関西学院大学出版会	神戸近代文化研究会 編 「第三章 喜劇のメッカ、聚楽館―神戸の大衆演劇」を執筆した
2. 『道草』論集 健三のいた風景	共	2013年9月	和泉書院	「健三と島田一「道草」試論―」の項を担当。141-156頁。夏目漱石「道草」について論じたもの。 編者：鳥井正晴、宮蘭美佳、荒井真理亜 著者：鳥井正晴、宮蘭美佳、荒井真理亜、上総朋子、岸元次子、北川扶生子、木谷真紀子、木村澄子、小橋孝子、笹田和子、佐藤栄作、長島裕子、村田好哉、山本欣司、吉川仁子
3. 博覧会（コレクション・モダン都市文化76）	単	2012年06月	ゆまに書房	明治・大正・昭和（戦前）にかけて展開する国内の博覧会に関する貴重な資料の覆刻と解題、関連年表等をまとめ、解説「博覧会という夢」を付したものである。 監修：和田博文
4. 樋口一葉 豊饒なる世界へ	単	2009年10月	和泉書院	「大つごもり」「たけくらべ」「ゆく雲」「にぎりえ」「十三夜」「わかれ道」「われから」を対象に、さまざまな疑問を足がかりとして、複雑に絡み合った小説の細部をときほぐし、意味づけながら、樋口一葉の豊饒なる世界へアプローチを試みたもの。
5. 論集 樋口一葉 IV	共	2006年11月	おうふう	「物語ることの悪意―「われから」を読む―」の項を担当。84-107頁。樋口一葉「わかれ道」について論じたもの。 編者：樋口一葉研究会 著者：菅野貴子、橋本のぞみ、愛知峰子、笹尾佳代、戸松泉、藤澤るり、山本欣司、畑有三、田中励儀、野口碩、松下浩幸、満谷マーガレット
6. 大正文学史	共	2001年11月	晃洋書房	「第十一章 近代演劇」の項を担当。179-195頁。 編者：上田博・國末泰平・田邊匡・瀧本和成 著者：上田博・國末泰平・田邊匡・瀧本和成、野村幸一郎、古澤夕起子、山本欣司、辻本千鶴、水野洋、小林孔、田口道昭、尾崎由子、外村彰
7. 〈新しい作品論〉へ、新しい教材論〉へ 評論編4	共	2001年11月	右文書院	「大森荘蔵「真実の百面相」論」の項を担当。74-86頁。高校の国語教科書教材である大森荘蔵「真実の百面相」について論じたもの。 編者：田中実・須貝千里 著者：林原純生、田近洵一、阿毛久芳、幸田国広、山本欣司、鎌田均、中丸宣明、牧戸章、服部康喜、上谷順三郎、宮越勉、児玉忠、大塚美保、松崎正治
8. 明治文芸館 I ―新文学の機運―	共	2001年05月	嵯峨野書院	明治の森 時代人物（西郷隆盛・大久保利通・成島柳北・高島藍泉）の項を担当。84-88頁。 編者：上田博・瀧本和成 著者：上田博・瀧本和成・桑原三郎・平岡敏夫・野村幸一郎・木股知史・水野洋・古澤夕起子・山下多恵子・森崎光子・田村修一・池田功・越前谷宏・山本欣司・橋本正志・伊藤典文・椿井里子・外村彰・村田裕和・鈴木敏司・内田賢治・田口真理子
9. 作家の世界体験―近代日本文学の憧憬と模索―	共	1994年04月	世界思想社	「堀田善衛とスペイン―人間存在への凝視―」の項を担当。213-222頁。堀田善衛とスペインの関わりについて論じたもの。 編者：芦谷信和、上田博、木村一信 著者：芦谷信和、上田博、木村一信、瀧本和成、野村幸一郎、田口道昭、友田悦生、森崎光子、富澤成實、吉岡由紀彦、川島晃、山本欣司
10. 論集 樋口一葉	共	1966年11月	おうふう	「出会わない言葉の別れ―「わかれ道」を読む―」の項を担当。195-215頁。樋口一葉「わかれ道」について論じたもの。 編者：樋口一葉研究会 著者：高田知波、菅聡子、野口碩、滝藤満義、出原隆俊、愛知峰子、鈴木啓子、青木一男、満谷マーガレット、千田かをり、山本欣司、重松恵子、木谷喜美枝、吉田昌志、山根賢吉、平岡敏夫

2 学位論文				
1. 博士論文 樋口一葉 豊饒なる世界へ	単	2010年03月	和泉書院	書き下ろしも含め、これまでに執筆した樋口一葉関係論文を単著にまとめたもの。和泉書院より出版のち、立命館大学に学位論文として提出。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
2. 修士論文 樋口一葉後期文学の特 質―「十三夜」をめぐって―	単	1992年01月	立命館大学	「十三夜」を中心に、樋口一葉後期文学の特質を探 求したものの。
3 学術論文				
1. 孤独を癒やすということ：アー ノルド・ローベル「おてがみ」を 読む	単	2019年03月	『学校教育センター年 報』4号 13-21頁	小学校国語教材「おてがみ」（アーノルド・ローベ ル）について論じたもの。
2. 別役実「愛のサーカス」を読む	単	2018年2月	『学校教育センター年 報』第3号 39-47頁	中高国語教材である、別役実「愛のサーカス」の解 釈について論じたもの。
3. 「雀こ」の世界	単	2016年6月	『太宰治研究』24 和 泉書院 63-72頁	津軽弁によって語られた、太宰治「雀こ」の世界に ついて論じたもの。
4. 〔調査報告〕1923年の『大阪朝日 新聞 神戸附録』その1	共	2014年3月	『武庫川女子大学紀要 人文・社会科学編』61 巻（武庫川女子大学） 11-21頁	近代の港湾都市神戸の文化形成を、モダニズムにと らわれずさまざまな角度から研究する神戸近代文化 研究会では、1923年の『大阪朝日新聞 神戸附録』 について網羅的に調査した。本稿（その1）は、「 雑草園」、映画、演劇の動向についてまとめたもの である。共著者は、大橋毅彦（「雑草園」）、永井 敦子（映画）。
5. 日本近代文学研究と樋口一葉	単	2011年03月	『弘前大学国語国文学 』32号（弘前大学国語 国文学会）82-97頁	日本近代文学研究がこれまでたどってきた道のりと 、それに連動する形で変容してきた樋口一葉研究の 在り方を説明したもの。
6. 作品論Ⅱ「人物に就いて」	単	2009年06月	『太宰治研究』17輯、 和泉書院、233-241頁	太宰治のエッセー「人物について」について論じた もの。
7. 「泥の河」論―小栗康平の世界へ ―	単	2009年03月	『弘前大学教育学部紀 要』102号（弘前大学教 育学部）1-9頁	宮本輝「泥の河」について論じ、あわせて小栗康平 「泥の河」にもふれたもの。
8. 芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む	単	2007年09月	『弘前大学教育学部紀 要』98号（弘前大学教 育学部）1-9頁	国語教科書教材でもある、芥川龍之介「蜘蛛の糸」 について論じたもの。
9. 立松和平「海の命」を読む	単	2005年09月	『日本文学』54巻9号（ 日本文学協会）52-60頁	小学校国語・教科書教材である、立松和平「海の命」 について論じたもの。
10. 「たけくらべ」と〈成熟〉と	単	2004年08月	『国文学―解釈と教材 の研究―』49巻9号（学 燈社）72-82頁	〈成熟〉をキーワードとして、樋口一葉「たけくら べ」について論じたもの。
11. 売られる娘の物語―「たけくらべ 」試論―	単	2003年03月	『弘前大学教育学部紀 要』87号（弘前大学教 育学部）11-21頁	売られる娘の物語として、樋口一葉「たけくらべ」 について論じたもの。
12. 「たけくらべ」の美登利	単	2001年03月	『クロノス』14号（京 都橋女子大学 女性歴 史文化研究所）12-13頁	樋口一葉「たけくらべ」の美登利について論じたも の。
13. 樋口一葉のドラマツルギー	単	2000年11月	『枯野』11号（枯野の 会）24-34頁	樋口一葉のドラマツルギーの特質について論じたも の。
14. 「たけくらべ」の方法	単	2000年03月	『立命館文学』564号（ 立命館大学人文学会）1 -27頁	樋口一葉「たけくらべ」の方法について論じたもの 。
15. 「浅草紅団」論	単	1999年06月	『樟蔭女子短期大学紀 要 文化研究』13号（ 樟蔭女子短期大学学 会）33-40頁	川端康成「浅草紅団」について論じたもの。
16. 後悔の深淵―「山月記」試論―	単	1998年12月	『日本文学』47巻12号 （日本文学協会）19-28 頁	国語教科書教材でもある、中島敦「山月記」につい て論じたもの。
17. 「大つごもり」を読む―「正直は 我身の守り」をめぐって―	単	1995年07月	『立命館文学』540号（ 立命館大学人文学会）4 0-56頁	樋口一葉「大つごもり」について論じたもの。
18. 「十三夜」論の前提	単	1995年02月	『立命館文学』538号（ 立命館大学人文学会）1 9-33頁	樋口一葉「十三夜」を論じるにあたっての前提につ いて論じたもの。
19. 樋口一葉『ゆく雲』論―「冷やか 」なまなざし―	単	1994年12月	『日本文芸学』31号（ 日本文芸学会）51-63頁	樋口一葉「ゆく雲」について論じたもの。
20. 「十三夜」論―お関の「今宵」/ 斎藤家の「今宵」―	単	1994年08月	『国語と国文学』71巻8 号（東京大学国語国 文学会）	樋口一葉「十三夜」について論じたもの。
21. 「にごりえ」試論―お力の「思ふ 事」―	単	1992年12月	『論究日本文学』57号 （立命館大学日本文 学）35-45頁	樋口一葉「にごりえ」について論じたもの。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. Textual Subtlety in the Later Writing of Higuchi Ichiyo: Int erpreting Takekurabe	単	2020年1月10 日	Crossing the Borders of Modernity:Fictiona l Characters as Repre sentations of Alterna	ドイツ・ケルン大学にて2日間にわたって行われた 、明治期日本文学に関する国際シンポジウムに招聘 され、樋口一葉の後期テキストの特質について、英 語で研究発表を行った。発表者は欧米を中心に17名

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
			tive Concepts of Life in Meiji Literature (1868-1912)	(日本からは3名)。
2. 学会発表				
1. 「うもれ木」と対幻想	単	2015年11月2 3日	樋口一葉研究会 第24 回大会 於：明治大学 ・駿河台キャンパス	樋口一葉「うもれ木」について論じたもの。
2. 信如像再検討の試み—信如はツン デレか—	単	2014年12月2 1日	日本女子大学文学部・ 文学研究科学術交流企 画 講演会・新内上演 樋口一葉『たけくら べ』—生成・認知・流 通— 於：日本女子大学 目 白キャンパス成瀬記念 講堂	樋口一葉「たけくらべ」に登場する藤本信如という 人物について、その人物像を再検討したもの。
3. 日本近代文学研究と樋口一葉	単	2010年11月	2010年度 第51回 弘 前大学国語国文学会、 於：弘前大学	日本近代文学研究がこれまでたどってきた道のりと 、それに連動する形で変容してきた樋口一葉研究の 在り方を論じたもの。
4. 「にぎりえ」再考—映画「にぎり え」を補助線として—	単	2008年11月0 8日	2008年度 日本近代文 学会関西支部秋季大会 、於：近畿大学	今井正監督による映画「にぎりえ」を補助線として 、樋口一葉「にぎりえ」を論じたもの。
5. 「泥の河」論	単	2008年10月2 5日	韓国日本近代学会 第1 8回国際学術大会、於： 立命館アジア太平洋大 学	宮本輝「泥の河」について論じたもの。
6. 「蜘蛛の糸」を読む	単	2006年7月16 日	日本文学協会 第26回 研究発表大会、於：東 北大学	芥川龍之介「蜘蛛の糸」について論じたもの。
7. 「たけくらべ」と〈成熟〉と	単	2004年6月19 日	樋口一葉研究会 第十 七回例会、於：お茶の 水女子大学	〈成熟〉をキーワードに、樋口一葉「たけくらべ」 について論じたもの。
8. 樋口一葉「たけくらべ」をめぐっ て	単	2002年07月0 6日	第四三回 弘前大学国 語国文学会 研究発表 大会、於：弘前大学	美登利変貌論争を中心に、樋口一葉「たけくらべ」 を論じたもの。
9. 「たけくらべ」の方法	単	1998年12月1 2日	第十六回 阪神近代文 学会 冬季大会、於： 大阪成蹊女子短期大学	樋口一葉「たけくらべ」の方法について論じたもの 。
10. 「正直は我身の守り」—「大つご もり」を読む—	単	1994年10月0 8日	樋口一葉研究会 第4回 例会、於：日本女子大 学	樋口一葉「大つごもり」を論じたもの。
11. 樋口一葉『ゆく雲』論—「冷やか 」なまなごし—	単	1994年05月2 2日	第31回 日本文芸学会 総大会、於：甲南女子 大学	樋口一葉「ゆく雲」を論じたもの。
12. 「十三夜」論の前提	単	1992年06月1 3日	1992年度 日本近代文学 会 関西支部春季大会、 於：梅花女子短期大学	樋口一葉「十三夜」について論じたもの。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 事典：『東北近代文学事典』「丹 野正、中村嘉良、名和三幹竹、錦 三郎、芳賀秀次郎」の五項目を担 当	共	2013年06月	勉誠出版、全845頁（分 担）351・389・400・40 4・418頁	編者：日本近代文学会東北支部・『東北近代文学事 典』編集委員会、著者：日本近代文学会東北支部会 員以下、多数につき省略 東北地方に関係のある「丹野正、中村嘉良、名和三 幹竹、錦三郎、芳賀秀次郎」について論じたもの。
2. 事典：『京都近代文学事典』「半 井桃水、小林久三、入江為守、国 崎望久太郎」の四項目を担当	共	2013年05月	和泉書院、全428頁 （分担）264・143・53 ・126頁	編者：日本近代文学会関西支部・京都近代文学事典 編集委員会、著者：日本近代文学会関西支部会員以 下、多数につき省略 京都府に関係のある「半井桃水、小林久三、入江為 守、国崎望久太郎」について論じたもの。
3. 書評：増田裕美子・佐伯順子共編 『日本文学の「女性性」』	単	2013年05月	『会報』17号（日本近 代文学会 関西支部）1 2頁	学会からの依頼により、増田裕美子・佐伯順子共編 『日本文学の「女性性」』について書評したもの。
4. 書評：塚本章子著『樋口一葉と斎 藤緑雨—共振するふたつの世界』	単	2012年01月	『日本文学』61巻1号（ 日本文学協会）76-77頁	学会誌からの依頼により、塚本章子著『樋口一葉と 斎藤緑雨—共振するふたつの世界』について書評し たもの。
5. 事典：『兵庫近代文学事典』…「 中島らも、木谷恭介、原秀則、平 山繁夫」の四項目を担当	共	2011年10月	和泉書院、全376頁 （分担）243・132・273 ・279頁	編者：日本近代文学会関西支部・兵庫近代文学事典 編集委員会、著者：日本近代文学会関西支部会員以 下、多数につき省略 兵庫県に関係のある「中島らも、木谷恭介、原秀則

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 書評：戸松泉著『複数のテキストへ 樋口一葉と草稿研究』	単	2010年11月	『日本近代文学』84集（日本近代文学会）273-276頁	、平山繁夫』について論じたもの。 学会誌からの依頼により、戸松泉著『複数のテキストへ 樋口一葉と草稿研究』について書評したもの。
7. 事典：『滋賀近代文学事典』…「深田久弥、木村至宏」の二項目を担当	共	2008年11月	和泉書院、全426頁（分担）305・306・123・124頁	編者：日本近代文学会関西支部・滋賀近代文学事典編集委員会、著者：日本近代文学会関西支部会員以下、多数につき省略 滋賀県に關係のある「深田久弥、木村至宏」について論じたもの。
8. 書評：趙恵淑著『樋口一葉作品研究』	単	2007年07月	『日本文学』56巻7号（日本文学協会）70-71頁	学会誌からの依頼により、趙恵淑著『樋口一葉作品研究』について書評したもの。
9. 書評：峯村至津子著『一葉文学の研究』	単	2006年11月	『日本近代文学』75集（日本近代文学会）321-324頁	学会誌からの依頼により、峯村至津子著『一葉文学の研究』について書評したもの。
10. 事典：『大阪近代文学事典』…「木谷恭介、小林井津志、中島らも、三田誠広」の四項目を担当	共	2005年05月	和泉書院、全339頁（分担）122・209・270・272頁	編者：日本近代文学会関西支部・大阪近代文学事典編集委員会、著者：日本近代文学会関西支部会員以下、多数につき省略 大阪府に關係のある「木谷恭介、小林井津志、中島らも、三田誠広」について論じたもの。
11. 事典：『樋口一葉事典』…「第二部 項目編」のうち、「穴沢清次郎、小宮山天香、関如来、原良造、樋口くら、広瀬お若、広瀬七重郎、藤田屋、松永政愛、丸茂文良、三浦るや子、宮崎三味、望月米吉、山下直一、吉田実」の計十五項目を担当	共	1996年11月	おうふう、全525頁（分担）136・193・231・294・297・310・313・325・326・327・331・339・343・347頁	編者：岩見照代、北田幸恵、関礼子、高田知波、山田有策、著者：多数につき省略 樋口一葉に關係のある「穴沢清次郎、小宮山天香、関如来、原良造、樋口くら、広瀬お若、広瀬七重郎、藤田屋、松永政愛、丸茂文良、三浦るや子、宮崎三味、望月米吉、山下直一、吉田実」について論じたもの。
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年4月から2017年3月	日本近代文学会 関西支部 運営委員長（事務局）
2. 2015年7月から2020年7月	阪神近代文学会 会長
3. 2012年04月から現在	日本近代文学会 関西支部 運営委員
4. 2012年04月から現在	阪神近代文学会 運営委員（兼・学会誌編集長）
5. 2009年04月から2011年03月	日本近代文学会 東北支部 運営委員
6. 1999年04月から2001年10月	阪神近代文学会 運営委員
7. 1997年04月から2002年03月	日本近代文学会 関西支部 運営委員
8. 1993年04月から現在	日本文藝学会 所属
9. 1992年11月から現在	樋口一葉研究会 所属
10. 1992年04月から現在	日本近代文学会 所属
11. 1992年04月から現在	日本文学協会 所属